



「国際大会に行く人なんて  
雲の上の存在」とか思っている人、  
沢山いるのではないか。  
私もそう感じていた1人でした。

# 派遣支 **OBOGイン**

「他の人の目から社会を見る」  
ことを初めて経験したのが、  
模擬国連だった気がします。

# 援事業 タビュー



国際政治を単なる概念上のものではなく、そこに無数の人の影を見出せるようになりました。

これまで生きてきた世界のちっぽけさを思い知った経験でした。

今でも、あの時のことを思い出すと、「あの時ほど自分は努力しているだろうか」と身が引き締まります。

# 高島峻輔さん（7期派遣生）



## PROFILE

高校卒業後、米国に渡りました。

ハーバード大学で再生可能エネルギーを学ぶ傍ら、留学フェローシップというNPO法人の理事長を務め、海外進学という選択肢があることを全国の中高生に伝えると同時に、主体的な学び・人生のデザインができるような社会を作るため、日々活動しています。

## INTERVIEW

### 高校模擬国連事業を通して得たものは何ですか？

高校卒業後、米国に渡りました。

思えば、「他の人の目から社会を見る」ことを初めて経験したのが、模擬国連だった気がします。大使として他国の視点で国際問題を見つめることはもちろん、他の大使とディスカッションする中で、どのように相手を説得するか、ともに国際問題を解決するにはどのような提案が効果的なのか、考え続けることが、社会を立体的に捉える力を育んでくれました。

派遣支援事業OBG インタビュー

# 高島峻輔さん（7期派遣生）

高校模擬国連事業は進路選択に影響を与えたか？

また、現在のご活動に活きていると感じる場面はありますか？

帰国子女ではなかった僕にとっては、GCの国際大会派遣が世界中の同世代と戦った初めての経験でした。全く自分のパフォーマンスが出せなかっただという悔しさと、優秀賞を頂いたことによる少しの自信が、今振り返ると**アメリカの大学を目指し始めた大きなきっかけ**かもしれません。また、国際大会前後の国際機関等表敬訪問を通して、自分たちも社会の一員であり**国際問題を考える責任があると強く実感**したことが、NPOという形でいまの仕事にも繋がっていると感じます。

**これから参加を目指す高校生にメッセージをお願いします！**

模擬国連は、単なる交渉ゲームではありません。国際問題をゲームのツールとして捉えるのではなく、**実際にこの世界に存在し、実際に世界中の人々が解決に向けて取り組んでいる問題だと捉え、真摯に向き合うことが何よりも重要だと思います。**そして同時に、その国際問題は**私たちの世代が解決していかねばならない問題**です。机上の空論ではなく現場に出て、実際に国際連携を通じて国際問題を解決する一助となるような準備・会議行動をしていただければ嬉しいです。僕も、自分のフィールドでがんばります！

派遣支援事業OBG インタビュー

# 青木達也さん（6期派遣生）



## PROFILE

四大監査法人の一つ、Ernst & Youngという法人のカナダ・トロント事務所にて、監査の仕事をしています。

## INTERVIEW

高校模擬国連事業を通して得たものや学んだこと、印象に残っている出来事があれば教えてください。

一番は、**かけがえのない友達**を得たことです。皆輝かしい経験の持ち主で、自分も頑張らなきゃと励まされます。今でも日本に帰国する度、また旅行先などで同期と会います。最近では、ボストンを観光で訪れた際に、ハーバードで研究をしている同期生と食事をしました。そして、模擬国連・派遣事業から学んだことは、**一生懸命努力をすれば誰か必ず見ている人がいて、何かしらの貴重な経験を与えてもらえる**、ということです。満を持して参加した2年目の全日本大会では、初日に、思い描いていたプランと全くかけ離れた結果になってしまい、派遣生として選ばれる可能性はほぼゼロの状態に。二日目は、気を取り直して一生懸命交渉をし、「派遣団に選ばれるのは無理だけど、悔いのない会議になってよかったです」と満足し、結果発表の時には何も期待をせず、帰る準備をしていました。**自分のチームの名前が呼ばれた時はただ信じられませんでした**。嬉しさのあまり泣いた影響で、表彰時にはコンタクトレンズが片方取れてしまうというハプニングもありました。今でも、あの時のことを思い出すと、「あの時ほど自分は努力しているだろうか」と身が引き締まります。

派遣支援事業OBG インタビュー

# 青木達也さん（6期派遣生）

高校模擬国連事業はどのように進路選択に影響を与えたか？

また、現在のお仕事に活きていると感じる場面はありますか？

まずは、海外大学を目指す大きなきっかけになりました。カナダ・バンクーバーにあるブリティッシュコロンビア大学で会計学を学び、今は監査人の卵として働いています。

また、派遣の経験から、日本語を使わず、国外で互角に仕事ができる、という自信を得ました。カナダの多国籍企業をメインクライアントとして仕事をしていますが、「外国人だから」「英語が完璧じゃないから」といった不安はなく、仕事のクオリティーや専門的知識、プロジェクトマネジメント等の面で、皆に頼りにされています。

手前味噌で恐縮ですが、去年、カナダのChartered Professional Accountant（勅許専門会計士）という会計士資格の共通最終試験を受け、カナダ全土でトップ1%の成績で合格し、National Honour Rollというのに選ばれ表彰されました。良い成績が残せたのは、模擬国連時代の、悔いのないようがむしゃらに努力するという経験、そして、模擬国連を通して得た友人たちが日々努力し輝かしい活躍をしているのを見て自分も頑張らなければ、と感じていたことが大きく、GCの高校模擬国連事業にはとても感謝しています。

**これから参加を目指す高校生にメッセージをお願いします！**

会議前の議題に関する徹底的なリサーチ、英語での決議案作成、相手の国益も考えながらの交渉、そして、会議を通してできる一生の友達。これらは、あなたの可能性を伸ばし、人生の選択肢を広げてくれるこことでしょう。頑張って。そして、楽しんで下さい。

派遣支援事業OBG インタビュー

# M. A. さん（9期派遣生）

## PROFILE

聖心女子大学文学部心理学科4年。現在は卒業論文として、幼児における絵本の読み聞かせを通した社会的マイノリティへのファミリアリティ向上についての研究をしています。幼児期の障害理解教育が、偏見や誤った認識を持ちにくくなるという先行研究をもとに、今回はセクシャルマイノリティに関する絵本を用いた実験計画をたてています。また、国際系の勉強も続けています。高校時代は、模擬国連会議の議題について調べるために必死で、そもそも国際法や国連機関の仕組みや歴史については正直手が回っていませんでした。基礎を学んでから社会人になろうと、「今更」とは思わず取り組んでいる最中です。

## INTERVIEW

### 高校模擬国連事業は進路選択に影響を与えたか？

模擬国連では、1国の大天使として、自国の国民はもちろん世界の人々のためにと、様々な問題の解決策を「模擬」とはいえ本気で立案していました。しかしその解決策には、PTSDを患う元少年兵への社会復帰支援／HIV予防等の正しい衛生教育／紛争等に巻き込まれ心に傷を負った人々へのメンタルケアなど、内容を深く理解しないまま必要性のみを感じて決議案に加えた文言も含まれていました。そのため大学では、「国民」と一括りにしていた高校時代とは正反対に、人間ひとりひとりに焦点をあて、苦しむ人のためにもっと直接的に役立てる方法を学びたいと考えました。

派遣支援事業OBG インタビュー

# M. A. さん（9期派遣生）

## 高校模擬国連事業を通して得たものは何ですか？

全日本大会やそれまでの練習を通して、会議経験を重ねそのたびに議題をリサーチをするうちにニュースで見かける**国際問題への知識**が深まり、「難しそう」「どうせわからない」と思わず**更に知ろうという好奇心**も芽生えました。

## これから参加を目指す高校生にメッセージをお願いします！

「模擬国連なんて意識高い系だし難しそう」「全日本大会に出れるのはすごい人」「国際大会に行ける人なんて雲の上の存在」とか思っている人、沢山いるのではないでしょうか。**私もそう感じていた1人でした。**そんな私が模擬国連を始めたのは、国際問題解決への熱い情熱が芽生えたわけでも、将来国際的に活躍する人材になるという夢を抱いたわけでもなく、**たまたま教室で席が前だった友達に誘われた**からです。

きっかけが何であれ、模擬国連を知り少しでも興味をもったなら、まず飛び込んでみてください！皆さんが模擬国連から得るものが、知識や経験なのか、スキルなのか、自信や自分に対する期待なのか、それは私にはわかりません。でも、やらない後悔よりやった後悔という言葉もあるように、まずは一步踏み出してみてください！授業で模擬国連体験をしてほしいと先生に頼んでみる、一緒に模擬国連部をつくろうと同級生を誘ってみる、といった大きいことのみでなく、まずは**模擬国連のルールを調べてみる**、**過去の大会議題を読んでみる**、など小さな一歩からでも、模擬国連に触れてみてください！

# 西田裕信さん（7期派遣生）

## PROFILE

東京大学 工学部 機械工学科 卒業

東京大学大学院 新領域創成科学研究科

人間環境学専攻 所属



## INTERVIEW

高校模擬国連事業は進路選択に影響を与えたか？また、現在のご活動に活きてていると感じる場面はありますか？

実家と高校が関西にあり、日本でも有数の京大への輩出率を誇る母校で育ったにも関わらず、東大を目指そうと思ったのは、間違いなく全国大会出場者や共に渡米した同期、そして渡米を引率してくださった当時の大学生運営メンバーの影響が大きいです。

彼らに憧れと負けん気を抱き、せめて同じ場でこれから的人生を歩みたい、と志望先を決めました。

また、上記の通り大学生活では英語ミュージカルの制作に携わりましたが、自分の次の代を引き継いでくれたのが、渡米8期の後輩の一人でした。

同期も後輩も、今も変わらず切磋琢磨しあえる良きライバルであり、良き仲間です。

派遣支援事業OG インタビュー

# 西田裕信さん（7期派遣生）

高校模擬国連事業を通して得たものは何ですか？

自分から物事を考え、作り上げる姿勢を知り、初めて自分の人生に自由を感じたのはこの経験がきっかけでした。

中高一貫校で育ち、学外に繋がりを持たなかつた自分にとって、GCの高校模擬国連事業を通じて経験した出来事は、一つ一つが新鮮で学びの多いものでした。

「とりあえず勉強しとけば良い」「とりあえず求められていることをこなせば良い」そんな考え方だった自分にとって、**自国の政策案から議場のチーミングまで、何も決まっていない状態がとても不安**でした。事前に行った練習会議では、基本的なルール以外は動き方に制限のない議場で、縦横無尽に駆け巡る同期に食らいつくのに必死だったのを覚えています。

自分のこれまで**生きてきた世界のちっぽけさ**を思い知った経験でした。それでも、何もないところから斬新で思い切った同期の行動を見て、自由な発想に憧れを抱くと同時に、見えないしがらみのような何かから解放された気分でした。

そこから、自分達なりに全力を尽くし、渡米する機会を頂いた時の喜びは今でも忘れません。

余談ですが、大学時代は学生ミュージカルの制作に明け暮れました。

『ゼロから何かをクリエイティブに作り上げる』

そんな空間に惹かれるようになったのも、この経験がルーツなのかもしれません。

派遣支援事業BLOG インタビュー

# 安田侑加さん（8期派遣生）

## PROFILE

聖心女子大学卒。NPO法人青春基地にて、公立高校におけるProject Based Learningのカリキュラムデザイン、実施を担う。The University of Manchester の修士課程・MA Education (International) に進学予定。



## INTERVIEW

### 高校模擬国連事業を通して得たものは何ですか？

失敗も含めた全ての経験から学びを得ようとする姿勢が身につきました。模擬国連に参加するまでは、できないことを恐れ、学校というコンフォートゾーンで精一杯頑張ることにとどまっていました。しかし、積極的に学外の活動に参加するなど、自分の力でチャンスを生み出す友人たちの姿から、どんなことからも学ぼうと、**まず挑戦してみるようになりました**。そして、その挑戦から得た学びを次の挑戦へつなげ、だんだんとチャレンジゾーンを広げることができました。

派遣支援事業BLOG インタビュー

# 安田侑加さん（8期派遣生）

高校模擬国連事業は進路選択に影響を与えるましたか？

また、現在のご活動に活きていると感じる場面はありますか？

模擬国連を通じて得た地球規模課題への理解は、現在の活動につながっています。当時、大会に向け膨大なリサーチに取り組む中、大局的な見方をすれば地球規模課題は持続不可能性への負の悪循環であると考えました。そのため、その解決には持続可能性への好循環を生み出すことが必要であり、知ること、即ち教育がその一歩になり得ると思いました。その気づきが、**大学の授業で知った「持続可能な開発のための教育（ESD）」**という分野につながり、進路選択や現在の活動の軸になっています。

これから参加を目指す高校生にメッセージをお願いします！

もしかしたら最もエネルギーに溢れているかもしれない高校時代に、切磋琢磨できるかけがえのない友人と出会い、とことん考え悩み抜き、**世界の縮図や多様な価値観**を知る中で視野を広げる経験は、一生ものの宝になると思います。模擬国連の学びのプロセスは人それぞれだからこそ、**将来自分が何かに直面した際に背中を押してくれ**るような、そんな経験を得てくださいね！